

平成24年度

教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価
報告書

(平成23年度事業対象)

台東区教育委員会

目 次

1	趣 旨	1
2	点検及び評価とは	2
3	点検及び評価の構成	2
4	「学びのまち台東区 アクションプラン」の位置づけ	4
5	教育施策評価の方法	5
6	教育施策評価の結果	7
	・ コミュニケーション能力の育成	8
	・ 地域や国を担う高いところざし	14
	・ 学校（園）マネジメントの向上	20
7	学識経験者による意見	26
8	教育委員会の活動状況	32

1 趣 旨

台東区教育委員会では、教育を取り巻く現状をしっかりと把握し、「教育目標及び基本方針」にて今後の教育の方向を掲げています。さらに、教育目標達成の具体的な取り組みを「学びのまち台東区 アクションプラン」として策定し、施策を着実に進めるとともに、地域の力を活かした教育力の向上により「学びのまち台東区」の実現に努めております。

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、平成20年4月からすべての教育委員会は、毎年、事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見を図るものとされています。

台東区教育委員会では、平成20年度から主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を毎年実施することとし、ここに平成24年度の点検及び評価の実施結果を報告書にまとめました。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

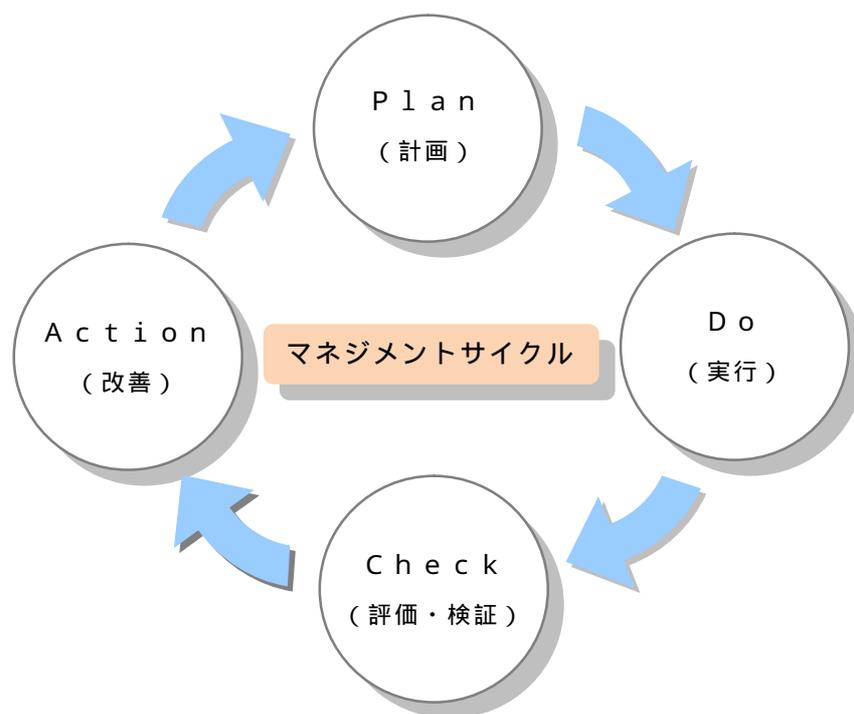
第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価とは

これまでも施策や事務事業を「計画（Plan）」するときには、必要な検討を行い、「実施（Do）」してきましたが、時代を取り巻く環境が大きく変化し、区民ニーズも多様化・複雑化する中、既存の施策や事務事業の効果が現時点でも十分に現れているか、費用対効果の面で予算は有効に活かされているかなどを、客観的に「評価・検証（Check）」を行うとともに、着実に「改善（Action）」を図っていく必要があります。

点検及び評価は、Plan - Do - Check - Action というマネジメントサイクルの Check - Action に相当するもので、実施した施策や事務事業を客観的に評価し、その結果を次年度に活かしていく手段となります。このことにより明らかになった課題を、迅速に次年度以降の施策や事務事業に反映させることで、より合理的・効果的な教育行政の運営を果たしていくこととなります。



3 点検及び評価の構成

(1) 実施方法

例年、台東区が実施している教育委員会の事務も含めた個々の事業を対象に行う事務事業評価と台東区長期総合計画の全施策を対象として行う施策評価等からなる行政評価（1）を活用し、教育目標達成の具体的な取り組み

を示している「学びのまち台東区 アクションプラン」に基づいて、点検及び評価を実施してきました。

しかし、区では本年より3年間、行財政基盤の強化に向けた事務事業の見直しを行う間、従前の行政評価制度（事務事業評価・施策評価・外部評価）を一時休止することを決定したため、平成24年度の「教育に関する事務及び執行の状況の点検及び評価」においては、区が実施した事務事業実績シート（2）を活用し、「学びのまち台東区 アクションプラン」に基づいて、点検及び評価を実施しました。

1 行政評価とは、社会情勢やニーズの変化に対応した弾力的な区政運営をめざすため、人材や予算といった経営資源が有効に活用されるように、政策や施策、事務事業を定期的に検討する仕組みです。

2 事務事業実績シートとは、事務事業の実績や進捗の管理を行ない区民への説明責任を果たすため、全ての事務事業（従来の行政評価対象事業）について実施するもの。

（2）点検及び評価の対象

「学びのまち台東区 アクションプラン」で示している8つの体系の中から3つの体系を選択して、平成23年度に取り組んだ施策について、点検及び評価を行ないました。

コミュニケーション能力の育成

地域や国を担う高いところざし

学校（園）マネジメントの向上

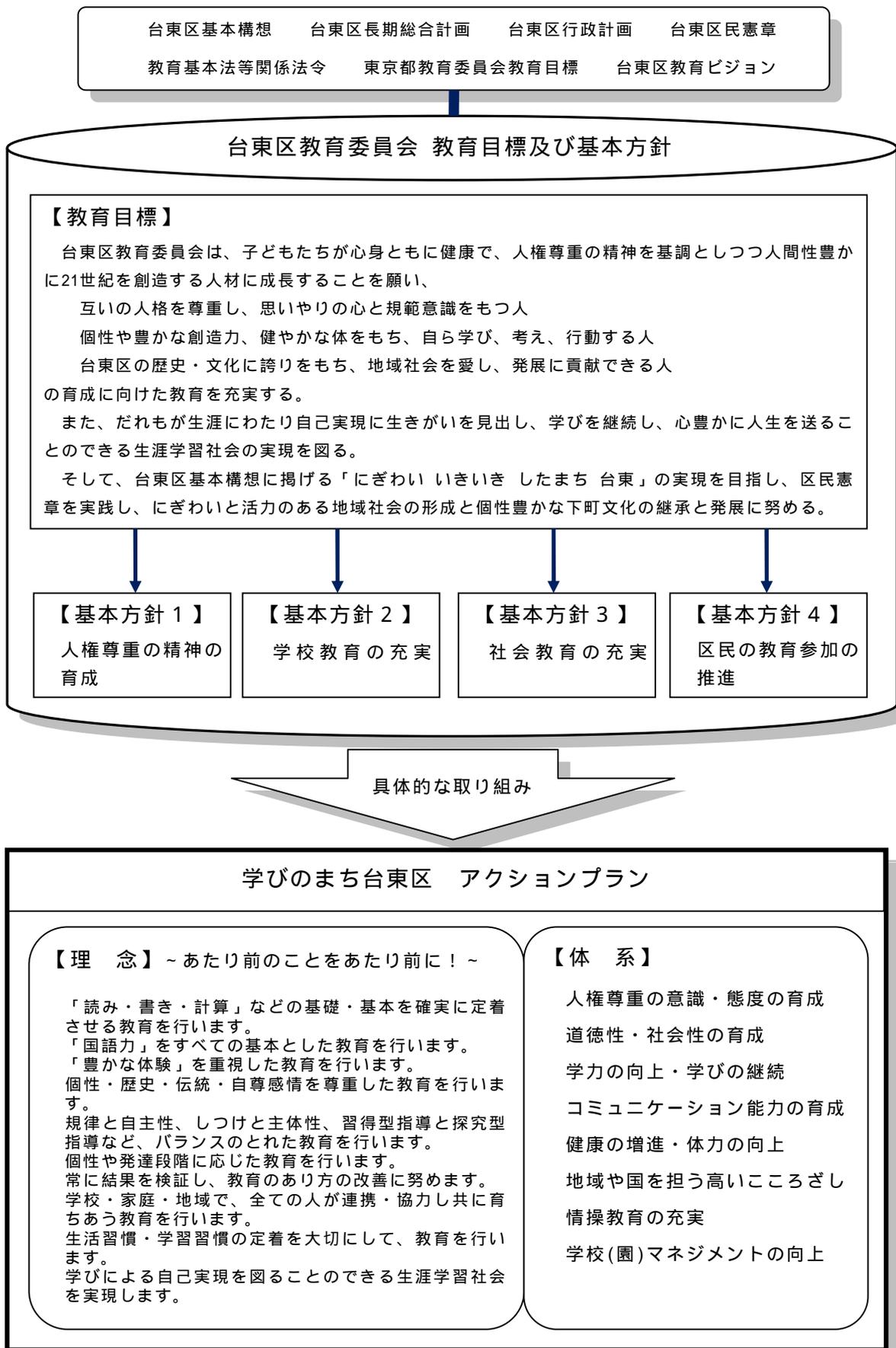
（3）学識経験を有する者の知見の活用

点検及び評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方のご意見をお聞きする機会を設け、様々なご意見、ご助言をいただきました。

学識経験者

氏名	所属等
辰野 千壽	筑波大学名誉教授
浦井 正明	寛永寺長藹
有村 久春	帝京科学大学教授
小松 郁夫	玉川大学教職大学院教授

4 「学びのまち台東区 アクションプラン」の位置づけ



5 教育施策評価の方法

(1) 教育施策評価シート

台東区教育委員会が実施している施策を定期的に客観的な基準で採点し、評価するために、教育施策評価シートを用いて実施しています。事務事業実績シートに基づき、それぞれの施策について、実績の推移、効率性・コスト、組織・人員の3つの視点と総合評価から、課題等を抽出し、改善の方向性をまとめました。

(2) 教育施策評価シートの構成

施策名

アクションプランで掲げている体系（8つの柱）の施策名を記載しています。

現状と課題

施策（柱）における現状と課題について、平成23年度末時点で記載しています。

基本的な考え方と施策の方向

施策（柱）の基本的な考え方と具体的な取り組みについて、アクションプランを参考に記載しています。

施策の執行状況

施策（柱）の執行状況（進捗度）について、簡潔に記載しています。

〔分類〕

・施策（柱）の中で、構成する主要な施策事業を記載しています。

〔事業名〕

・分類中、指標を設定している主な事務事業を記載しています。

〔指標〕

・事業の実施による効果が客観的に数値等で測定できるよう項目を設定し記載しています。

〔事業実績〕

・指標に対して、各年度の実績を記載しています。

アクションプランを構成する事業に係る決算額と事務事業コスト

〔事業名称〕

- ・施策（柱）に係るものの中で、台東区で実施した事務事業実績シートの対象になっている事務事業を記載しています。

〔23年度および22年度決算額〕

- ・各事業の23年度および22年度決算額を記載しています。

〔23年度および22年度事務事業コスト〕

- ・各事業の23年度および22年度事務事業コストを記載しています。

執行状況の評価

施策（柱）の平成23年度の実績や現在の状況を踏まえて、実績、効率性やコスト、組織・人員の各視点から、評価を行ない、施策の円滑な実施のために必要な課題等を記載しています。

総合評価

「執行状況の評価」での各視点からの評価を踏まえて、アクションプランの実施状況の評価について総合的に記載しています。

今後の方向性

現状と課題の検証、執行状況を踏まえ、教育委員会として取るべき今後の対応及び改善策を記載しています。

（3）主な事業の取組み

教育施策評価シートにまとめた施策のうち、主な事業の取組みについて、現状や課題、今後の取組み等を具体的に施策評価の後にまとめました。

6 教育施策評価の結果

「学びのまち台東区 アクションプラン」の体系にある8つの柱（施策）から選択しました「コミュニケーション能力の育成」、「地域や国を担う高いところざし」及び「学校（園）マネジメントの向上」の3つの施策評価（シート）の結果につきましては、次（頁以降）のとおりです。

平成24年度 教育施策評価シート

施 策 名	コミュニケーション能力の育成
--------------	----------------

1. 現状と課題 (平成23年度末)

【現状】

「人が豊かにかかわり、交流し合うことの大切さに気づき、言葉、文章、表情、動作などの表現を通して、人や社会と円滑な関係を築くことができる能力や態度を育成する」の考え方のもと、コミュニケーションスキルの向上、英会話力の向上、体験活動機会の充実、子どもの読書活動推進計画の推進などの取り組みを進めている。

学校教育においては、日本語によるコミュニケーションの充実を図り、豊かな人間関係を築くため、言語活動を十分に取り入れた教育活動を行うよう努めている。

子どもの読書活動の推進においては、文部科学省が設定している学校図書標準を目途に、各学校図書館と区立中央図書館のネットワークによる図書情報の共有化を図り、学校図書館の蔵書の充実と、学校図書館の効果的な運営に努めている。また、読書を通じて楽しい子育てができるように、絵本を媒体にして、乳幼児と保護者が温かいぬくもりの中でやさしく語り合う機会を提供している。

【課題】

これからの社会に生きる子どもたちにとって、異なる言語や文化を理解することや、他者と積極的にコミュニケーションを図ることは、コミュニケーション能力を高めるうえで重要である。このため、学校教育において、話すこと・聞くこと・書くこと・読むことに関する指導を発達段階に応じて適切に行うことが必要である。また、乳幼児期からの家庭での親子のふれあいや地域社会での様々な人々とのふれあい、体験活動の機会の提供などを通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していくことも必要である。

2. 基本的な考え方と施策の方向 (アクションプランの「基本的な考え方」等)

(学校教育)

国語科を中心に、コミュニケーションスキルの向上に努める。

(家庭・地域)

親子や大人と子ども、子ども同士のふれ合いの機会を充実する。

(社会教育)

読書活動や様々な体験活動により、コミュニケーションの機会を充実する。

3. 施策の執行状況 (アクションプランで設定されている事業実績等)

分 類	事 業 名	指 標	事 業 実 績		
			21 年 度	22 年 度	23 年 度
英会話力の向上	英語発表会	参加生徒数	90名	90名	90名
「子どもの読書活動推進計画」の推進	幼・小・中学校図書環境整備	1校園あたり図書購入数 (学校図書標準整備率)	幼 238冊 小 469冊 中 930冊 (小100.6%) (中 83.0%)	幼 109冊 小 476冊 中 850冊 (小94.6%) (中84.3%)	幼 115冊 小 493冊 中 835冊 (小100.5%) (中 84.9%)
「子どもの読書活動推進計画」の推進	まちかど図書館管理運営	入館者数 貸出件数	24,418名 34,027件	22,245名 34,622件	19,418名 38,661件
「子どもの読書活動推進計画」の推進	読書活動推進	貸出冊数	6,511冊	42,081冊	84,999冊
「子どもの読書活動推進計画」の推進	学校図書館ボランティア	活動日数 ボランティア登録者数	2,186日 398人	1,990日 415人	2,593日 528人
体験活動の機会の充実	青少年教育の推進	少年研修リーダー 研修会参加者数	1,798名	1,746名	1,678名
体験活動の機会の充実	通学合宿	通学合宿 参加児童数	40名	45名	37名

4. アクションプランを構成する事業に係る事務事業コスト

事業名称	決算額		事務事業コスト	
	千円		千円	
	23年度	22年度	23年度	22年度
小学校図書環境整備	23,314	25,119	24,575	26,263
中学校図書環境整備	14,694	14,495	15,954	15,639
幼稚園図書環境整備	1,642	1,620	2,453	2,324
学校図書館ボランティア	2,748	2,594	3,018	2,859
英語発表会	91	97	272	273
青少年教育の推進	4,098	4,056	13,843	14,476
読書活動推進	23,986	23,986	24,436	24,602
子どもの読書活動推進	4,023	5,212	22,026	27,211
まちかど図書館管理運営	1,360	1,184	8,561	7,345
合 計	75,956	78,363	115,138	120,992

5. 執行状況の評価

評価の視点	評価	課題等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	A 順調である B 一部課題がある C 課題ある	文部科学省設定の学校図書標準の達成状況や図書の入替状況も順調であり、平成25年度末には標準的な図書環境を整備することができる。また、学校図書館ボランティアの登録者数、活動日数ともに年々増加していることや、まちかど図書館の開館日数の増加、貸出冊数の上限拡大など、事業は順調に推移している。
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	A 順調である B 一部課題がある C 課題ある	学校図書館に配置する司書の質を保つため、公立図書館や学校図書館における司書配置の実績を有する業者に事業委託をするなど、効率的な事業運営を行っている。また、図書単価は再販制によって規制されているが、仕様を工夫することで図書搬入の装丁（図書ラベル等）について効率性を高めている。
事務事業の執行体制上（組織・人員）の課題は無いのか。	A 順調である B 一部課題がある C 課題ある	図書購入の事務処理は各校事務担当者が行っており、事務処理は順調であるが、搬入図書の整理等については、学校図書館司書や図書ボランティアの役割が今後も重要である。また、一部の事業については、事業量が多く、職員の負担が大きいこともあり、可能な範囲でマニュアル化を図るなど、改善の余地はあるが、概ね限られた人員の中で効率的な事業の実施に努めている。

6. 総合評価（上記5の～に基づいた総合評価）

A	コミュニケーション能力を育成するうえで必要な読書活動の推進については、本の紹介や資料展示などを行い読書意欲を高める工夫をしたことにより、貸出冊数が増加している。また、図書環境の整備状況についても、おおむね順調に推移している。
A 順調である B 一部課題がある C 課題ある	その他の事業においても、厳しい財政状況から予算を縮減しつつも、これまでと同程度の事業を継続して提供できるよう効率的な事業運営を行っている。

7. 今後の方向性

子ども同士のコミュニケーション能力の発達に即した取組みを、より一層推進していく必要がある。

中学校図書館の学校図書標準は、平均84.9%となっている。古い図書も多いため、図書の入替や図書館の環境整備について今後も事業を継続し、全校における学校図書標準の100%達成を目指して取り組んでいく。

読書活動については、児童生徒が一層本に興味・関心を持たせるために、様々な分野の図書を取りそろえ、読書に親しむための時間を設定するなどして、読書習慣を確立させる必要がある。また、司書を活用して、図書の紹介等をする際に、学習内容に沿った図書内容を紹介するなど、授業に図書を活用できるような工夫をさらに図っていく。

学校図書館ボランティアについては、図書ボランティア指導員を活用していない学校が数校あるので、全校に配置し、活用を促進することにより、児童・生徒へのレファレンスサービスや貸し出し業務、読み聞かせ等を充実させ、活気のある図書環境を作っていく。

< コミュニケーション能力の育成の主な事業の取り組み >

1 「『正しい日本語』によるコミュニケーションスキルの向上」

(1) アクションプランの記載内容

各校（園）において、日本語によるコミュニケーションの充実を図り、豊かな人間関係を築くため、言語活動を十分に取り入れた教育活動を行う。各小・中学校においては、「国語」の授業を充実するとともに、学級活動における話し合い活動を充実するなど、全教育活動を通して、正しい日本語によるコミュニケーションの取り方について十分に指導を行う。また、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れたり、学級や学校全体での「スピーチ大会」「プレゼンテーション大会」などを計画的に取り入れたりしながら、コミュニケーションの技能の修得を発達段階に応じて適切に行う。

平成20年度末現況	計画目標
学校独自の取り組み	普及啓発学校の取り組みの充実

(2) 取り組み状況

< A 小学校 >

- ・年間8回の授業研究を行い、児童の言語能力の向上を図る指導法についての研究を進めた。（第1学年「生活」、第2学年「音楽」・「生活」・「国語」、第3学年「図工」、第4学年「算数」、第5学年「社会」、第6学年「国語」）
- ・以下の効果を意図して、読書活動に重点を置き、図書ボランティアや図書館司書、近隣図書館と連携して読書の充実を図った。年3回の読書週間を設け、「読書の木」作成、「秋のお話会」、「読書集めカード」、「読書貯金カード」、「読み聞かせお話会」などを実施した。
語彙の増加 豊かな表現方法に触れる 他者への共感的理解
多様な価値観に触れる
- ・毎週2回、ミニ作文・言葉集めに取り組み、「書くこと」のスキルの向上を図った。
- ・季節の詩や古典の暗唱に全校で取り組んだ。
- ・NHK放送研修センター前日本語センター長、つくば言語技術教育研究所長等を講師として、教員研修を実施し、教員の言語能力の向上や言語感覚を磨く取組を行った。

<B 小学校>

- ・子供たちが正しい日本語で自分の考えをはっきりと相手に伝えたり、相手の話をしっかりと聴いたりする力を育てることをねらい、アナウンサーを招へいし、ゲストティーチャーとして授業を展開している。

- ・その結果、以下のような成果が上がっている。

子供たちがプロのアナウンサーの美しい言葉に触れ、言葉に対する感性を豊かにし、丁寧な言葉遣いを意識できるようになった。

専門家としてのアナウンサーによる指導を通して、話すことや聞くことの技能を身に付けるための学習意欲が高まった。

アナウンサーに、指導内容について、学校側の要望を伝えることができ、それに応える授業内容を展開することができた。

(3)課題

- ・教科等のねらいを達成するための「手段」としての「言語活動」がその充実を進めようとするあまり「ねらい」になってしまう場合があった。
- ・「書く」ことはできるが、それを話して伝えるということがうまくできないという児童が多い。
- ・アナウンサーが外部講師として指導するが、プロのアナウンサーのすごさを子供たちに実感させ、より学習意欲をもたせるようにするなど、授業内容の工夫が求められる。

(4)今後の取り組み

- ・教科等のねらいを達成するために、発問を吟味し、ねらいがぶれないようにしていく。
- ・論理的な思考力とともに、コミュニケーション能力の両面から育てていけるような手だてを考えていく。
- ・担任から、アナウンサー教室の課題と要望などを聞き取り、具体的な授業案をアナウンサーに提示していく。
- ・保護者等へ「アナウンサー教室」について、さらに広報し、外部の方からも意見を聞くなどして、実施内容や方法の改善案を創造していく。

2 「各学校における魅力ある読書活動の推進」

(1) アクションプランの記載内容

司書教諭、図書担当教諭を中心に各学校の特色や地域、児童・生徒の実態に即した読書活動を推進し、その充実に努める。

平成20年度末現況	計画目標
学校図書館ボランティアの活用	学校図書館ボランティアの活用4校司書配置

(2) 取り組み状況

司書資格を有する要員を週1回全小中学校へ配置し、授業や学習で活用できるように、書棚整理や分類表示を統一するなど、学校図書館の環境整備を行っている。また本の紹介や資料展示等を行い、児童・生徒の読書に対する興味、関心を深めさせることで読書意欲を高め、読書離れに歯止めをかける。

<実施校> 平成21年度 4校
平成22年度 26校
平成23年度 26校

<学校における取組例>

- ・年度初めに図書館活用のためのガイダンスを行ったり、日頃から図書の間時間を確保したりすることで、学習等が行えるよう、整備している。
- ・個人の貸出上限冊数を3冊に増加することにより、貸出冊数が多くなってきている。
- ・教科書掲載図書コーナー、行事等に関する資料提供、テーマ展示などを実施している。
- ・学校図書館の入口の掲示板に、新着絵本を紹介し、図書館内での設置場所を示す地図を加え、興味をもった本を自分で探せるようにしている。
- ・児童・生徒や教員が司書の勤務日に読書支援、読書相談等を受けられるような体制にしている。
- ・司書が児童・生徒や教員の声など広く情報をとりまとめ、選書に反映し、利用の促進を図っている。

(3) 課題

- ・ 読書指導や学習支援における司書の活用機会及び図書館ボランティアとの連携機会を増やす必要がある。
- ・ 学校図書館を積極的に利用できるよう、児童・生徒に対してさらに利用指導が必要である。
- ・ システムの導入により、今後は、読書傾向の分析等の活用が必要である。

(4) 今後の取り組み

- ・ 児童生徒が一層本に興味・関心を示すために、様々な分野の図書を取りそろえたり、読書に親しむための時間を設定するなどして、読書習慣を確立させる。
- ・ 学校に配置している司書に対し、児童、生徒及び教員が質問等をしやすい関係性を作る。
- ・ 図書の紹介等をする際に、学習内容に沿った図書内容を紹介するなど、授業に図書を活用できるような工夫を図る。

平成24年度 教育施策評価シート

施策名	地域や国を担う高いところざし
------------	----------------

1. 現状と課題 (平成23年度末)

【現状】

「歴史と伝統によって培われてきた個性豊かな下町文化の継承と地域社会の発展に貢献するとともに、高いところざしと意欲を持った人材を育成する」の考え方のもと、ところざし教育の推進、キャリア教育の推進、地域を学ぶ機会の充実、文化資源の保存・活用などの取り組みを進めている。

学校教育においては、児童生徒が未来の日本を担うところざしと意欲を培う教育を行うため、先人の功績や言行等について学ぶ副読本「ところざし高く」を作成・配付し、小中学校全校で「ところざし教育」を推進している。

また、児童生徒が地域の歴史や伝統・文化を知り、地域社会への興味・関心を深めることができるよう、地域の方に教育活動に参加してもらう「ふれあい学習」を小中学校全校で行っている。キャリア教育の推進では、地域の商店街や企業等で仕事を手伝う「中学生職場体験」を実施して、職業観・勤労観を育む教育を推進するとともに、教員に「進路指導研修会」を実施し、進路指導の充実を図っている。

地域を学ぶ機会の充実では、子どもたちに郷土の歴史・文化を伝えるための「台東区歴史・文化テキスト」を制作し、学習用教材として活用するとともに「台東区子ども歴史・文化検定」を実施している。文化資源の保存・活用においては、区民が記録した貴重な映像の発掘・保存・活用を進めるための「台東区映像アーカイブ」の実施や埋蔵文化財発掘調査の成果の周知と子供への考古学教室を開催する「埋蔵文化財ウィーク」等を行っている。

【課題】

台東区に住む子どもたちに、台東区の歴史・文化に対する誇り、高齢者を敬い家族を愛する心、地域や国を愛する心を醸成し、友達や地域の人々と力を合わせて、住みやすい地域や民主的な国の創造、発展に貢献するという高いところざしを育てていくことが重要である。このため、学校、家庭、地域社会がより一層連携して、子どもたちの生活の様々な場面における育成に取り組むことが必要である。

2. 基本的な考え方と施策の方向 (アクションプランの「基本的な考え方」等)

- (学校教育)
台東区の歴史・文化を理解し、社会の一員としてのところざしを高めていく。
- (家庭・地域)
地域の伝統的な行事などに、子どもと一緒に進んで参加していく。
- (社会教育)
地域の伝統を保存・継承するとともに、地域を学ぶ機会を提供していく。

3. 施策の執行状況 (アクションプランで設定されている事業実績等)

分類	事業名	指標	事業実績		
			21年度	22年度	23年度
ところざし教育の推進	ふれあい学習	実施回数	518名	345名	386名
ところざし教育の推進	小学校演劇鑑賞教室	参加児童数	1,053名	1,018名	1,130名
キャリア教育の推進	進路指導の充実	研修会参加者数	59名	59名	49名
キャリア教育の推進	進路指導の充実	職場体験参加生徒数	791名	790名	790名
地域を学ぶ機会の充実、文化資源の保存・活用	台東区の民話と伝承遊びの普及	参加児童・園児数	2,268名	2,289名	2,426名
地域を学ぶ機会の充実、文化資源の保存・活用	文化財保護	文化財講座参加者数	98名	191名	193名
地域を学ぶ機会の充実、文化資源の保存・活用	池波正太郎記念文庫管理運営	入館者数	54,998名	59,997名	48,959名
地域を学ぶ機会の充実、文化資源の保存・活用	台東区歴史・文化検定	検定参加者	-	251人	98人
地域を学ぶ機会の充実、文化資源の保存・活用	台東区映像アーカイブ	利用人数	-	601件	454件
地域を学ぶ機会の充実、文化資源の保存・活用	埋蔵文化財ウィーク	子ども考古学教室参加者員数	60人	60人	60人
地域を学ぶ機会の充実、文化資源の保存・活用	郷土資料の記録と整備	利用件数	35,479件	35,888件	40,028件

4. アクションプランを構成する事業に係る事務事業コスト

事業名称	決算額 千円		事務事業コスト 千円	
	23年度	22年度	23年度	22年度
ふれあい学習	1,160	1,036	1,611	1,124
進路指導の充実	1,247	1,270	2,147	1,535
小学校演劇鑑賞教室	3,729	3,326	4,090	3,503
台東区の民話と伝承遊びの普及	1,310	692	3,110	2,453
文化財保護	24,846	25,235	38,347	39,315
池波正太郎記念文庫管理運営	10,329	13,279	17,080	20,318
台東区歴史・文化検定	3,244	1,674	6,844	4,315
台東区映像アーカイブ	6,330	6,213	9,031	8,853
埋蔵文化財ウィーク	310	710	3,010	3,351
郷土資料の記録と整備	4,161	3,494	19,012	17,134
合 計	56,666	56,929	104,282	101,901

5. 執行状況の評価

評価の視点	評価	課題等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	B A 順調である B 一部課題がある C 課題ある	「ふれあい学習」の実施回数や、「台東区民話と伝承遊びの普及」の参加児童・園児数は前年度より若干実績が増加しているなど、事業実績は全体的にはおおむね順調に推移している。しかしながら、「台東区映像アーカイブ」の利用人数や「台東区歴史・文化検定」の検定参加者など、前年度より若干実績が下回っている事業もあり、周知方法や内容の見直しを行い、利用者数や参加者利用者数を伸ばせるよう工夫する必要もある。
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題ある	「小学校演劇鑑賞教室」では、1回の講演で多数の児童が鑑賞できるよう学校の調整を行って実施日数を抑えていることや、「台東区歴史・文化検定」においては、職員が対応できることは職員が行い、委託業務の縮減を図るなど、効率性とコストの改善に努めている。今後も厳しい行財政のもと、費用対効果を鑑み、事業内容の精査や手法の見直し等を行い、成果を下げることなく、縮減やコストダウンを図れるよう事業を進めていく。
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題は無いのか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題ある	学校教育や生涯学習関連の事業においては、執行体制に大きな課題は無く概ね順調に進められている。 なお、「文化財の保護」や「郷土資料の記録と整備」など、限られた人員により調査や資料整理を行っている事業については、職員の負担が大きくなる一面もあるため、マニュアル化による作業の効率化や執行体制の工夫など、その対応に努めていく。

6. 総合評価 (上記5の ~ に基づいた総合評価)

A A 順調である B 一部課題がある C 課題ある	各事業とも子どもたちに台東区の歴史や伝統、文化、先人の生き方等について学ぶ機会を充実し、それを理解することにより自分の将来に対する夢や理想を持ち、こころざしを高めることに寄与しており、実績も概ね順調に推移している。また、限られた人員と予算の中で、事業の実施にあたっては、効率性やコスト削減の観点から工夫を凝らしている。 一方、「台東区歴史・文化検定」の参加者など、実績が前年を若干下回っている事業も一部あるため、改善に向け周知方法や実施方法等の見直しについても検討する。
-------------------------------------	--

7. 今後の方向性

進路指導の充実については、進路指導に関する研修会には、小学校教員の参加も予定されているため、進路指導の重要性を小学校教員に対しても一層啓発していくとともに、研修会における内容を最新の傾向を踏まえたものとするため、指導課からも積極的に情報を発信し、研修内容の充実を図る。

職場体験については、民間事業所に対して、職場体験の重要性を丁寧に説明し、当該事業の本質の理解を得るよう努めて協力を要請していくとともに、区内の公的機関との連携を全中学校に促し、一定の受入事業所を確保していく。

こころざし教育については、5歳児の保護者を対象とした懇談会(「小学校へのかけはし懇談会」)を通して、小学校入学に向けた家庭教育の充実を図っていく。

小学校演劇鑑賞教室については、演劇鑑賞教室担当校長を中心に、教員数名からなる運営委員会を発足し、実施に向けた検討等を実施する。また運営委員会には、能・狂言を演じる「台東能の会」師範も招聘し、学校と能の会が連携した運営委員会を事前・事後合わせて3回程度開催することで、課題の解消を図っていく。

< 地域や国を担う高いところざしの主な事業の取り組み >

1 「こころざし教育副読本の活用について」

(1) アクションプランの記載内容

台東区に学び、生活する児童・生徒が、先人の功績や言行等について学ぶことにより、未来の日本を担うこころざしと意欲を培う教育を推進する。

小・中学校において、先人の功績や言行等から編纂した児童・生徒用副読本「こころざし高く」が有効に活用されるよう、講師派遣等を通して学校教育を支援する。

(2) 取り組み状況

児童・生徒用副読本「こころざし高く」を活用した小・中学校での授業の推進に努めている。また、平成24年度に副読本「こころざし高く」のさらなる充実を期し、副読本の読み物資料を新たに各学年1つずつ、編集し掲載することとしている。「こころざし教育副読本作成検討委員会」を区立小・中学校の校長、教員で組織し、新たに作成された読み物資料を活用した検証授業を先行的に実施している。この検証授業により、読み物資料の細かな文言等を検討し、実際の授業で十分に活用できる内容としている。本年度の「こころざし教育副読本作成検討委員会」での検証授業の実施は以下の通りである。

こころざし教育副読本作成検討委員会 検証授業

No.	部会	実施学年	実施学校	検証授業実施日	授業開始時刻
1	小学校低学年部会 小学校高学年部会	小学校1年	富士小学校	10月16日(火)	13:50~
2		小学校2年	上野小学校	11月13日(火)	14:30~
3		小学校3年	浅草小学校	11月5日(月)	14:25~
4		小学校4年	蔵前小学校	11月12日(月)	13:35~
5		小学校5年	平成小学校	10月15日(月)	14:25~
6		小学校6年	東泉小学校	10月23日(火)	14:35~
7	中学校部会	中学校1年	駒形中学校	9月18日(火)	14:30~
8		中学校2年	浅草中学校	10月9日(火)	14:30~
9		中学校3年	忍岡中学校	9月25日(火)	14:30~

(3) 課題

- ・現在、小学校低学年、小学校高学年、中学校と三種類の「こころざし教育副読本」を作成し、区内小・中学生に配布している。更に読み物資料を充実させ、指導の充実につなげることが課題である。
- ・こころざし教育副読本「こころざし高く」を学校の教育活動のなかで、さらに活用していくことが必要である。学校では主に道徳の授業において副読本を活用している。教員が授業展開等を検討する際の資料等の充実が課題である。

(4) 今後の取り組み

- ・「こころざし教育副読本」の内容を更に充実させるために、各学年の読み物資料を学年1つずつ追加すべく取り組んでいる。平成25年4月より各学校において使用する副読本より、新たな読み物資料を加えた副読本とする予定である。
- ・副読本を活用した道徳授業について「こころざし教育副読本作成検討委員会」において検証授業を実施し、学校のニーズに応じた資料提供を行い、授業実施を支援する体制を整える。学校教育情報室で行っている指導案などの情報提供等のデリバリーサービスを充実させ、こころざし教育の指導案・資料を積極的に学校へ提供していく。

2 「台東区の民話と伝承遊びの普及」

(1) アクションプランの記載内容

幼稚園・小学校の幼児・児童や親子を対象に、区内に伝わる民話や伝承遊びを通し、郷土を愛する心を育む。

平成20年度末現況	計画目標
訪問園・学校数 延べ40園・校	郷土を愛する心を育む

(2) 取り組み状況

平成9年3月に、こどもたちの郷土を愛する心を育むことをねらいとして、元区立学校教員や地域協力者が編集委員となり「台東区むかしむかし - お話と遊び - 」を刊行した。これを具体的に生かすために、平成9年度から、編集委員を中心とした普及委員が学校・園を訪問して、区内に伝わる民話の紙芝居等の読み聞かせと伝承遊びの指導を行っている。これまで訪問活動を行っていた区立幼稚園、こども園、小学校に加え、平成23年度からは区立保育園にも訪問している。

普及活動訪問園・学校数	21年度	41
	22年度	44
	23年度	51

【普及活動の内容】

区内に伝わる民話

- ・紙芝居 いたずらたぬき、かっぱの人助け、水のみ龍等13種類
- ・ペープサート(紙人形劇) 観音様と三社様 1種類
- ・語り 「台東区むかしむかし」掲載の民話等56種類

伝承遊び

紙飛行機、折り紙、松風ごま、渦巻きへび、すりこぎとんぼ、紙相撲、からくり屏風、かるた、鬼ごっこ、ビー玉、絵かき歌等47種類

(3) 課題

- ・ 訪問活動を行う普及委員は現在7名である。年間の訪問活動回数が限られていること、区立保育園への訪問活動を開始したことにより、各学校・園への訪問回数は原則年1回となり、複数回の訪問希望に対応できない。
- ・ 普及委員の中には高齢等でリタイアする方がでてきているため、地域の中で普及活動ができる人材の発掘・養成が必要である。
- ・ 活動における柱の一つである紙芝居は現在13種類あるが、学校・園周辺の話というのは限られているため内容が固定化してきている。

(4) 今後の取り組み

- ・ 普及委員の訪問活動だけでなく、小学校・幼稚園の教員や保育士が「台東区むかしむかし お話と遊び」を活用した指導を行えるような情報提供について研究していく。なお「台東区幼児教育共通カリキュラム」でも伝承遊びの指導計画事例として記載されている。
- ・ 平成24年度に普及委員を新たに2名任命した。年6回行っている普及委員会での研修等により、訪問活動に支障がないように育成していく。また、新規人材の発掘についてもあわせて進めていく。
- ・ 紙芝居の作成について検討するとともに、現在行っている読み聞かせや伝承遊びの更なる充実に努める。

平成24年度 教育施策評価シート

施策名	学校(園)マネジメントの向上
------------	----------------

1. 現状と課題 (平成23年度末)

【現状】
 「校長・園長のリーダーシップのもと、全教職員が一体となった指導を行い、成果を地域や保護者に発信するとともに、評価をもとに改善を図り信頼される学校(園)づくりを行う」の考え方のもと、マネジメント能力の向上、教職員の資質・授業力の向上、外部評価の活用、広報活動の充実、有識者との協働、保・幼・小・中の連携強化、教育環境の整備・充実などの取り組みを進めている。校園長のマネジメント能力の向上については、地域や子どもたちの実情に応じた主体的かつ創意工夫のある教育活動を展開できるよう、魅力ある教育活動の推進事業によって、予算面で校園長の裁量を拡大し、リーダーシップを発揮できる環境を整備している。また一方で、教職員からの組織的な協力(ボトムアップ)も重要であり、教職員の資質・能力の向上を図るため、各種研修会や教育課題に対する研究会など充実を図っている。外部評価の活用については、学校運営連絡協議会を設置し、各学校の目指す学校像を区民にわかりやすく説明するとともに、保護者や地域の方々の評価を、学校運営や教育内容に反映させる意見交換の場となるなど、地域社会に開かれた学校づくりを推進している。

【課題】
 教員の指導力向上には、職層、担当職域及び教科領域等別に研修を行うことにより、専門的な知識の深化・充実、実践的指導力等を身に付けさせ、指導内容等の充実を図ることが重要である。そのためには、今後も正確な知識を身につけられるような効果的な研修会を実施し、各分野における成果と課題を明らかにするとともに、課題解決への方策及び実践に向けて教員の資質をさらに高める必要がある。
 また、教育委員会では、理科・社会の指導強化を重点課題としており、小・中学校の教員等をメンバーにしたプロジェクトチームを編成し、小・中学校それぞれにある理科部会、社会科部会の合同化を推進するなど、課題の共通認識と小中学校の一層の連携を図っていく必要がある。

2. 基本的な考え方と施策の方向 (アクションプランの「基本的な考え方」等)

- (学校教育)
常に教育活動を広く公開し、評価を行い、よりよい教育へと改善する。
- (家庭・地域)
学校教育に対して、積極的に参加・参画するよう促す。
- (社会教育)
生涯学習の成果を学校教育にも生かす取り組みを支援していく。

3. 施策の執行状況 (アクションプランで設定されている事業実績等)

分類	事業名	指標	事業実績		
			21年度	22年度	23年度
マネジメント能力の向上	魅力ある教育活動の推進	事業満足度 幼児・児童・生徒	4点	4点	4点
教員の資質・授業力の向上	教職員研修	研修会参加者数	994人	525人	953人
教員の資質・授業力の向上	研究協力校	研究発表会参加者数	598人	647人	725人
教員の資質・授業力の向上	教員経験別研修	研修会参加者数	600人	700人	467人
教員の資質・授業力の向上	教育課題研究委員会	研究集配配布数	5,000部	400部	700部
教員の資質・授業力の向上	台東区教育委員会優秀教員奨励	被表彰者数 被表彰団体数	7人 2団体	5人 1団体	3人 3団体
外部評価の活用	学校運営連絡協議会	開催回数	122回	114回	114回
広報活動の充実	きょういく施策PR誌	発行回数	3回	3回	3回
有識者との協働	教育懇話会	開催回数	2回	4回	2回
保・幼・小・中の連携強化	教育調査研究	幼児教育推進訪問校(園)数	0校・園	0校・園	32校・園
保・幼・小・中の連携強化	小学校英語活動の推進	講師派遣日数 対象児童数	1,250日 6,400人	1,252日 6,403人	1,213日 6,382人
教育環境の整備・充実	学校・幼稚園における校務事務の改善	導入校普及率	2校 8%	26校 100%	26校 100%
危機管理体制の整備	子どもの安心対策	こども110番協力者数	1,965人	1,976人	1,925人

4. アクションプランを構成する事業に係る事務事業コスト

事業名称	決算額 千円		事務事業コスト 千円	
	23年度	22年度	23年度	22年度
魅力ある教育活動の推進	22,564	26,818	28,864	32,978
教職員研修	2,593	2,575	3,404	2,752
研究協力校	7,572	4,665	7,662	5,106
教員経験別研修	458	490	1,089	667
教育課題研究委員会	2,649	1,863	3,639	3,271
台東区教育委員会優秀教員奨励	472	373	743	902
学校運営連絡協議会	1,691	1,708	3,041	3,029
きょういく施策PR誌	2,222	2,255	4,472	4,456
教育懇話会	494	208	4,094	3,728
教育調査研究	5,451	4,375	8,601	6,576
小学校英語活動の推進	29,322	30,103	29,592	30,719
学校・幼稚園における校務事務の改善	17,945	27,520	22,445	31,921
子どもの安心対策	126	219	1,927	1,276
合 計	93,559	103,172	119,573	127,904

5. 執行状況の評価

評価の視点	評価	課題等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	A 順調である B 一部課題がある C 課題ある	教職員が児童・生徒に対する本質的な業務に従事できる時間を確保できるよう全小・中学校に校務事務支援ソフトを導入した。また、学校・園を訪問し、様々な意見が聴取できるよう教育活動を視察する教育懇話会の実施、校園長のリーダーシップのもとに、各学校・園において主体的かつ特色のある教育活動が行えるよう魅力ある教育活動の推進事業の実施など、概ね順調に推移している。
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	A 順調である B 一部課題がある C 課題ある	事務事業の効率性については、予算積算時に次年度に活動を事前に調査するなど、事業が効率的に実施できるように調整している。しかしながら、「研究協力校」など、一部の事業においては、実施回数の見直しや、団体への助成金について見直す必要があるなど、効率性およびコストの改善に一層努めていく必要がある。
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題はないか。	A 順調である B 一部課題がある C 課題ある	現状では、民間企業等へ委託するなど効率性を図り、限られた人員の中で着実に成果を上げられるよう努めている。また、子どもの安全対策事業については、東京都や他の所管でも行っており、整理を図る必要がある。

6. 総合評価 (上記5の～に基づいた総合評価)

A	学校(園)のマネジメントの向上には校園長のマネジメントの強化が重要であり、魅力ある教育活動の推進事業は、校園長の裁量の拡大とリーダーシップを促し、特色ある教育活動をするうえで着実に効果を上げている。また、教職員の資質・能力の向上を目的とした研修会等の充実や、校務事務支援ソフト導入による教員の負担軽減などの取り組みも実績をあげている。しかしながら、「小学校英語活動の推進」など、効率性やコスト面において課題のある事業もあるため、今後は改善を図っていく。
A 順調である B 一部課題がある C 課題ある	

7. 今後の方向性

理科、社会の学力向上のため小・中学校教員等をメンバーにしたプロジェクトチームを編成し、小中学校それぞれの理科、社会科部会の合同化を図り、効果的な指導方法を検討するとともに、教員への研究成果の普及に取り組んでいく。

また、校務事務の改善については、ソフトの基本的な操作ができるようになることで、各校に合った効果的な活用が進んでいくと考えられるため、まず、ソフトの基本的な操作方法などについてマニュアル等の整備を進めていく。また、各校からのソフトに対する要望などを随時確認し、全校的に展開が必要なものについてはソフトの改修を検討していく。

さらに、魅力ある教育活動の推進については、外部講師をより効果的に活用し、活動の充実を図っていくため、各校園の講師情報を取りまとめ、全校園に紹介・派遣できるようにしていく。また、活動内容や執行状況などを随時確認し、校園長のリーダーシップを促しながら事業を実施していく。

< 学校（園）マネジメントの向上の主な事業の取り組み >

1 「校務事務の改善」

(1) アクションプランの記載内容

校務事務全般にわたり積極的な改善を行い、事務処理体制の見直しなど、総合的な視点で効率化・省力化を推進し、教職員の幼児・児童・生徒に対する十分な指導時間の確保を目指す。

このため、モデル校（東泉小学校・浅草中学校）に導入した、校務事務支援システムの検証結果を踏まえながら、全小中学校に広げていく。

平成20年度 未現況	計画目標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
モデル校小中学校 各1校導入・テスト稼働	全小中学校校務システム導入・活用	モデル校小中学校 各1校本格稼働	モデル校小中学校 各1校本格稼働 (下半期)小学校 18校中学校6校 導入・テスト稼働	小学校19校・中 学校7校本格稼働

(2) 取り組み状況

全小・中学校に整備された教職員LAN環境に校務事務支援ソフトを導入し、運用する。

20年度	モデル校	グループウェアの利用開始
21年度	モデル校	校務事務支援ソフト（成績管理等）の利用開始 （全校 パソコン導入、グループウェア導入）
22年度	全校	校務事務支援ソフト（成績管理等）導入、テスト稼働
23年度	全校	校務事務支援ソフト（成績管理等）本稼働

【校務事務支援ソフトの主な活用】

- ・ 成績管理 成績処理（評価決定など）
通知表、指導要録及び抄本の作成
調査書等の作成（中学校）
- ・ 保健管理 児童・生徒の出欠管理
保健日誌の作成
出席簿の作成（小学校）

- ・その他 学校日誌の作成
 児童・生徒の名簿管理
 時数管理（小学校の一部） など

(3) 課題

全小・中学校にソフトの導入は完了し本稼働を開始したが、操作の習熟度に個人差がある。

また、活用していくなかでソフトの改修などが必要となってくる場合がある。

(4) 今後の取り組み

各校においてソフトを効果的に活用するために、誰でも使用できるよう、ソフトの基本的な操作方法などについてマニュアル等の整備を進めていく。また、ヘルプデスクなどのサポートを引き続き実施していく。

各校からのソフトに対する要望などを随時確認し、全校的に展開が必要なものについてはソフトの改修、見直しを検討していく。

2 「魅力ある教育活動の推進」

(1) アクションプランの記載内容

校（園）長や副校（園）長を対象に、研修会を開催し、管理職のマネジメント能力の向上を図っている。また、中・長期的な学校づくりの目標を定め、自校（園）の教育活動を推進できるよう学校からの提案による「魅力ある教育活動の推進事業」を活用し、校長のリーダーシップに基づく学校経営を支援する。

また、保育園長を対象にリーダーシップや専門性の向上が図れるよう、充実した研修に取り組んでいく。

(2) 取り組み状況

区立保育園、幼稚園、小学校、中学校において、校（園）長のリーダーシップのもと、各校園が自主性や自立性を発揮し、創意工夫のうえ、健康で人間性豊かな幼児・児童・生徒を育成するための魅力ある教育活動を支援している。

事業対象 48校園（区立保育園10園、幼稚園11園、こども園1園、小学校19校、中学校7校）

台東区幼児教育共通カリキュラムの策定等を受け、保育園での教育活動を充実させるため、平成23年度より区立保育園を事業対象に加え、保育園での魅力ある教育活動の支援を開始した。

【主な魅力ある教育活動】

- ・ 保育園 運動遊び、読み聞かせ、野菜栽培などの自然体験、歌う・リズム遊びなどの音楽活動 等
- ・ 幼稚園 お茶やお囃子などの伝統文化体験、栽培活動などの自然体験、親子でのふれあい活動 等
- ・ 小学校 邦楽・茶道などの伝統文化体験、オーケストラ・金管バンド活動、地域とのふれあい・地域を学ぶ活動、屋上庭園やピオトープなどを活用した自然・環境教育 等
- ・ 中学校 部活動技術指導、耐寒訓練、読書活動、放課後等の学習指導等

(3)課題

魅力ある教育活動は各校園の特色を表す活動の一つとなっているため、活動の継続及び充実を図っていく必要がある。

また、各校園において主体的に行われている活動であるため、活動を把握する必要がある。

(4)今後の取り組み

- ・各校園での活動状況を把握するため、必要に応じて校園長からの聞き取りや活動の視察などを行う。
- ・活動の成果を確認するため、実施報告書のほか、特に先駆的な取り組みについては詳細な成果報告書の提出を必要に応じて依頼する。
- ・各校園では独自で外部講師を招聘し活動を実施していることから、外部講師をより効果的に活用できるよう、講師情報などの提供方法を検討するなど、各校園での活動を確認するとともに、校園長のリーダーシップのもと、各校園で創意工夫した魅力ある教育活動が実施できるよう、情報提供や必要な助言等をしていく。

7 学識経験者による意見

辰野 千壽（筑波大学名誉教授）

【コミュニケーション能力の育成】

- ・ コミュニケーション能力は、相手に自分の考えや気持ちを伝達しあう能力であるが、その基礎には自分を理解する能力、相手を理解する能力、伝えあう言語能力があるので、コミュニケーション能力の育成には、これらの能力の育成が必要である。
- ・ 学校教育、家庭・地域、社会教育の役割を考え、それぞれの充実を工夫しているのはよい。
- ・ 正しい日本語によるコミュニケーションスキルの向上は、社会の現状からみても極めて重要であり、成果が期待される。
- ・ 学校図書館の充実・活用はよく配慮されている。
- ・ 図書館ボランティア指導員の制度は大変よい制度であり、充実・発展を期待する。
- ・ 読書活動充実のため、図書館との連携、読書週間の設置、スピーチ大会、プレゼンテーション大会など学校独自の工夫がよくなされている。

【地域や国を担う高いところざし】

- ・ 副読本「ところざし高く」を活用したところざし教育は、特色のある教育で、ますます充実・発展することを期待する。
- ・ 台東区の民話と伝承遊びの普及は、郷土を愛する心、さらには国を愛する心を育むのに大いに役立つ。
- ・ ふれあい学習は、地域社会への関心を深め、地域の一員としての自覚を促すのに役立つ。ゲストティーチャーをお願いするのは、よいアイデアである。
- ・ 進路指導もよく工夫されており、充実している。「生きる力」育成という今日の教育目標に適合している。
- ・ 演劇鑑賞教室は、伝統文化に親しむ良い機会であり、情操教育にも役立つ。

【学校（園）マネジメントの向上】

- ・ 管理職のマネジメントは、学校の教育目標を達成する機能と教職員の人間関係を良くし、モラルを高める機能の両面をもつが、変化が激しく、多忙化している今日の学校では、マネジメントの向上は重要な課題である。広い領域にわたり、マネジメント能力の向上を目指して適切な方策がとられている。
- ・ 事務処理の効率化、省力化が進み、教職員が教育に専念できる余裕ができたのは何よりである。

- ・教員の指導力向上のため各種の研修が行われている。それは望ましいことであるが、その成果はどうか、どのような評価が行われているか。
- ・学校運営連絡協議会は、開かれた学校づくりの推進と学校教育の充実に重要な役割を果たすことになっているが、その成果はどのように評価され、どのように生かされているか。

浦井 正明（寛永寺長藤）

【コミュニケーション能力の育成】

- ・基本的な考え方や施策はよいと思う
- ・書けるけど話せないという児童が多いことについては、アナウンサーなどを招いての授業も効果的ではあるが、一過性になることが惜まれる。書くことも話すことも共に読書を背景としているので、まず基本的には読書を奨励したい。小、中期の多読は決して無駄ではない。他人の文章をたくさん読むことで、書く力も読む力も自然に備わってくるのである。特に、話す方は、レベルに応じた「講演集」のようなものを提供するとよい。自分の伝えたいことを、どうやって話していくのかということが身につくと思う。
- ・季節の詩や古典の暗唱は素晴らしい。すぐれた作品に接することは、表現能力のみならず、感性がみがかれるのである。特に、こうした古典などは声に出して読ませるとよい。文章のもつ、リズム感や言葉の美しさが体得できると思う。
- ・「図書館たんけんたい」も是非継続して欲しい事業である。
- ・出来れば、中学の国語の授業（宿題でもよい）で、短篇を読ませ、その大意と感想を書かせてみて欲しい。これをつづけると、確実に文意を把握できるようになると共に、自己表現やまとめ方が身につくと思います。

【地域や国を担う高いところざし】

- ・「現状と課題」を見ると、極めてよい状態にあると思われる。一つひとつの内容がよく整っており、今後もこの路線を継承していくべきである。
- ・「学校教育」、「家庭・地域」、「社会教育」という取組みもよい。だが、現実にはこれらが複雑に組み合っていることが良いし、またその方が効果も上がると思う。
- ・映像アーカイブについては、フィルムという失われ易い、あるいは劣化し易いものだけに、緊急性を考えて対処して欲しい。
- ・歴史文化テキストを活用して児童、生徒に実地体験させるような企画を望みたい。
- ・郷土資料は第二次大戦で町がかなり焼失したため（台地部分は残った）資料そ

のものが少なくなり、中でも生の資料は稀少になった。その上“口碑”的資料も人口の半減や入れ替わりが激しく、次第に伝えにくくなっている。以上を踏まえて、郷土資料の発掘と保存、収集につとめなければならない。だが、それは必ずしも買い取りではなく、所在の確認と保存の依頼、物によってはコピーによる保存も必要である。

【学校（園）マネジメントの向上】

- ・ 全体的に、ほぼ満足できる取組みとなっている。特に「外部評価」や「有識者との協働」は大切である。評価が内部に片寄ることはさげなければならない。
- ・ 理科と社会の指導強化について、小、中それぞれにある二つの部会を合同して行うことは極めて大事なことである。小、中間の同一教科における繋がりをつける意味でも大切であるし、教師の方々の意志の疎通をはかる意味でも大事なことである。是非実施して欲しい。
- ・ 学校力の向上については、筆者の経験からいって、校長、副校長の力量と意志の疎通が極めて大事である。この2点の有無が結果としてハッキリあらわれるのである。優れた指導者のマネジメントによって、その学校は大きく変わることを実感したことがある。従って、人材と共に、正副校長の組合せは十分な配慮が必要である。
- ・ 魅力ある教育活動においては、各校・園で行っている講師の選択もよいが、区教育において各分野の優れた講師のリストをつくり、これを各校・園に提供することによって、より充実した魅力ある教育活動につながるものと思う。

有村 久春（帝京科学大学教授）

【コミュニケーション能力の育成】

- ・ コミュニケーション能力は、他とのかかわりにおいて身に付くものである。これからの多様化したしかも変化の激しい時代を生きる台東区の子どもたちに欠かせない力量である。この能力の育成を行動計画の一課題として教育施策を展開していることをうれしく思う。コミュニケーション能力は、周知のように2006年ごろから経産省が提唱している社会人基礎力、すなわち「前に踏み出す力（アクション）」「考え抜く力（シンキング）」「チームで働く力（チームワーク）」の三つの能力の中核をなすものである。その基礎が幼少期や小中学生期に育まれる。とくに学校教育では、学習指導要領に示される生きる力としての＜活用力＞に求められる思考力・判断力・表現力の育成と相関するものである。
- ・ アクションプランの中で、学校教育、家庭・地域、社会教育の場に即応したコミュニケーション能力を育成しようとする位置づけを評価したい。学校教育の

国語教育を中核にその拡がりを意識した具体的に取り組みがみられる。いうまでもないが、コミュニケーション能力は子どもの生活のある一部分を強化すれば良しとするものではない。日々の生活と社会空間の中に生きて応用される必要がある。その意味では、事業実績として行われている「英語発表会」や「読書活動」「体験活動」などが充実していることが評価できよう。

- ・台東区の各学校では、とくに日本語によるコミュニケーション能力の育成に力点を置き、そこでの言語能力とそれと連関する人間関係をも意図していることに学びたい。具体的には、「スピーチ大会」「プレゼンテーション大会」などの実践である。また、プロのアナウンサーを招聘して授業の充実を図る、国語や算数、音楽などの教科でも言語活動を意図した授業を行う、各学校の図書館を活用した読書活動を推進するなど、多くの教育活動の場で子ども個々の能力の開花を求めている。
- ・さらに言えば、評価シートの「A」評価（課内の自己評価）に満足することなく、具体的な事業の実施が子ども個々の学校生活等をどのように豊かにしているのか、また家庭・地域や台東区・社会の営みにどのように活かされているのかについて、＜子どもや保護者の声＞として把握することを期待したい。それらにより、「A」の意味がより確かになり客観性を持ちうるものと思う。

【地域や国を担う高いところざし】

- ・このテーマは、台東区の教育を象徴する＜精神性＞そのものであると思う。文化と伝統の奥深さ、そして粋としての人情などは、台東区ならではの風土である。ここで培われる高いところざしと意欲が、次代を担う子どもたちの生きるエネルギーになるものと期待する。さらなる向上と発展を求めたい事業の一つ一つである。
- ・その意味では、課内の評価を「B」としていること、やや消極的ではないだろうか。厳しい財政状況にあることは否めないが、事業の実施主体者がそれぞれ＜高いところざし＞を抱き、各事業内容のクオリティを追究してほしい。ふれあい学習や演劇鑑賞教室、伝承遊び、映像アーカイブなどは、子どもたちや区民の心の深淵を響き躍らせる素材を有していると思う。これらの事業計画の原点に立ち返り、台東区の文化資源の豊かさを多くの区民が享受できるように工夫していただければ幸いである。
- ・小中学校で実施されているところざし教育の副読本を活用した検証授業の意義とその成果に期待したいところである。評価シートによれば、年9回の実施がなされ、副読本の内容的な充実と改善がみられる。この実績をさらに発展させ、台東区のすべての子どもたちが年に1回はこの副読本に学ぶ機会がある、とする企画の運営を願う。可能ならば、それを保護者・地域に公開授業として展開すれば本事業の本来的な成果がみられるのではないか。例えば、「ところざ

し教育の副読本に学び合う「一斉授業公開」などの発想はどうであろうか。

【学校（園）マネジメントの向上】

- ・本事業は法令等の改正に伴う教育水準の向上を図るものであり、教育行政の担当者や各学校の教職員が一体となって取り組む必要がある。いわゆる「教育の質」を維持・向上していくために不可欠なものである。換言すれば、子ども個々の本質的な学習活動を保障するインフラの一つ一つといえよう。台東区がめざす人格形成のマネジメントの具体化としての位置づけを有しているものである。その意味では、台東区においては必要不可欠な各事業として網羅し、教職員及び子どもたち・保護者等の学びの環境を充実させていると思う。
- ・その成果や実績を求めるには、各校園長の識見の高さ（特に教育の将来展望を見通した思索）と組織運営の情念（「学習する組織」の確立）が欠かせないと思う。このことの実現に向けては、単に研修事業等の実施回数を確保すること、参加者の確保・増員を求めることにとどまらず、参加者自らが、「事業そのものを自主運営する」との発想の転換が必要ではないか。単に、「教育委員会の企画に参加する」との認識では学校組織及びマネジメントの自律的な向上には至らないであろう。
- ・各事業の「点検」や「維持」の要素として、各学校の教職員や関係者がどのような意識でその事業に取り組んでいるのか、そこから何を学習したいのか、などのボトムアップとしての成果を求めることが重要であると思う。このことが、実施主体者が「与える事業」から、教職員・子ども・区民が「学ぶ事業」へのチェンジに資するものと考えられる。とりわけ前者の認識が強すぎる場合、教職員に多忙感や疲労感が蓄積されるのではないだろうか。各学校や子どもおよび教職員等が主体的に企画運営し、その学習成果に自ら学び、改善と創造を促すような方向性を考えたいところである。

小松 郁夫（玉川大学教職大学院教授）

【コミュニケーション能力の育成】

- ・コミュニケーション能力は、まず自らが豊かな学びと創造性を高めていかないと向上しない。その点、学校においては、正しい日本語による能力の育成を目指し、国語科を中心に、言語活動の充実に力を注いでおり、着実な成果を挙げている。
- ・基礎的な条件となる図書環境の整備は、厳しい財政難の中、効率的な事業運営を工夫しており、今後は利用者数の増加に向けた様々な工夫をして、一層成果を向上させる努力が重要である。
- ・今後ますます重要性を増すと思われる外国語でのコミュニケーション能力の育成は、残念ながらやや停滞気味なので、各学校での日常的な指導と密着した活

動として工夫する必要があるのではないか。また、英語発表会などの活動に関しては、PRも重要である。

- ・学校図書館ボランティアは活動日数も増加し、活発に活動している。今後は、継続的な支援や研修の機会が必要と思われる。
- ・体験活動を通じた能力の育成は、参加者がやや低迷しているので、事業内容を工夫し、異年齢集団での学校の壁を越えた若者の絆作りとして、区の未来のリーダー養成として積極的に取り組むべきではないかと考える。

【地域や国を担う高いところざし】

- ・豊かな文化と風土を培ってきた台東区では、下町文化の継承と地域社会の発展に貢献できる人材の育成は、東京都及び日本社会全体に対する貴重な使命であり、広く期待されることである。自主制作した教育副読本『こころざし高く』を活用し、文化資源を積極的に児童生徒に指導している成果は、徐々に身につけているものと評価できる。
- ・こころざし教育の推進事業として展開されている小学校演劇鑑賞教室や台東区の民話と伝承遊びの普及などは、地域の恵まれた文化資源を活用し、台東区の歴史・文化に対して子どもたちが誇りを持ち、地域や国を愛する心を醸成する活動である。着実に参加者も増加しており、非常に意義のあるものと評価できる。今後は事業への協力者、支援者などを増やしていく工夫が望まれる。
- ・「中学生職場体験」事業は、商店街や地元企業等の温かい協力を得て展開しており、キャリア教育や進路指導の充実、職業観・勤労観の涵養などの点で評価できる。「ふれあい学習」と合わせて、地域社会と連携した活動を更に充実させ、地域への誇りを持ち、ふるさとに愛着を持つ児童生徒を育む事業の充実に期待したい。

【学校（園）マネジメントの向上】

- ・新学習指導要領が全面実施され、今後はカリキュラムマネジメントを中心とした組織的活動の質的向上が求められる。生きる力の育成はもちろんのこと、いじめ、不登校、体罰問題などの学校教育の課題解決に当たっては、校長のリーダーシップの発揮と、学校全体での組織力の向上がカギとなる。学校経営方針をしっかりと確立し、戦略的な思考を充実させて、着実に成果を検証していくマネジメント力が期待される。本区では、きめ細かに研修会を用意しているので、職員の参加を更に促し、成果を着実に挙げる不断の努力を期待する。
- ・国や東京都の研修を活用しつつ、日常的にはOJTで教職員の資質や授業力などを実践的に向上させる活動の充実が求められる。研修活動の質的向上と機会の充実、成果の普及などを一層改善していかなければならない。事業を精選し、研修成果を日常の授業改善などに活用していく工夫と、教育委員会の積極的な支援も重要と考える。

- ・依然として教職員の服務規律の確保が課題となっている。教育委員会が責任を持って研修を充実させると同時に、学校の管理職が不断に指導する体制の整備が望まれる。本区での課題は何かを意識した事業展開を期待する。
- ・学校評価システムの整備・充実が求められる。そのためには、まずは自己評価の内容を充実しなければならない。P D C Aのサイクルが活かされ、評価結果が次の年度の改善に活用されていかないと意味がない。実施率が向上している学校関係者評価の質的向上も課題である。単純にアンケートを実施して、集計結果を羅列したのでは、実効性のある学校評価とは言えない。学校評価を学校改善に結びつけるには、各学校での評価結果を、教育委員会としてどのように受け止めたのか、また評価結果が次年度の予算などにどのように反映されたのかなどの、具体的な説明が今後期待される。さらには第三者評価の在り方などを積極的に検討することも重要と考える。
- ・学校はなによりも「安全で安心できる」場所としてマネジメントされる必要がある。そのためには、個々の学校が危機管理能力を向上させると同時に、周辺の学校や地域社会とも連携しながら、いつ、いかなる時でも子どもをしっかりと守り、防災、減災に貢献する準備をしておくことが重要と考える。学校や地域での具体的な取組などを広く普及させることが行政の責任でもあると思う。

平成 2 3 年度 教育委員会の活動状況

平成 2 3 年度の教育委員会の活動については、教育委員会定例会・臨時会、学校・園への行事等の出席、区内各種団体の行事等への出席及び視察・研修などの活動を行ないました。

1 教育委員会委員

(平成 2 4 年 3 月 3 1 日現在)

役 職	氏 名	委員任期
委 員 長	宇田川 濱 江	平成 2 0 年 1 0 月 8 日から 平成 2 4 年 1 0 月 7 日まで
委員長職務代理者	末 廣 照 純	平成 2 2 年 1 2 月 2 5 日から 平成 2 6 年 1 2 月 2 4 日まで
委 員	樋 口 清 秀	平成 2 3 年 1 0 月 8 日から 平成 2 7 年 1 0 月 7 日まで
委 員	前 田 烈	平成 2 1 年 1 2 月 1 8 日から 平成 2 5 年 1 2 月 1 7 日まで
教 育 長	野田沢 忠 治	平成 2 0 年 1 0 月 8 日から 平成 2 4 年 1 0 月 7 日まで

2 教育委員会の会議

教育委員会の会議は、毎月 1 回開催する定例会と、必要に応じて開催する臨時会があり、教育に関する様々な議案について検討し議決を行うとともに、重要事項について事務局より協議及び報告を受けています。

(1) 会議の回数

- ・ 定例会 1 2 回
- ・ 臨時会 3 回

(2) 議案審議等の付議状況

- ・ 議案審議 3 7 件
- ・ 協議事項 7 4 件
- ・ 報告事項 1 4 6 件

(3) 議案審議の状況等

- | | |
|----------------------|-----|
| ・ 議会提出議案に対する意見 | 17件 |
| ・ 教育委員会規則及び規程の制定及び改廃 | 13件 |
| ・ 職員の人事に関すること | 1件 |
| ・ 教科書の採択に関すること | 2件 |
| ・ その他 | 4件 |

3 その他の教育委員会委員の主な活動

(1) 区立小・中学校・幼稚園、こども園、保育園関係

卒業式、式典、運動会、陸上大会、各種学校行事等への出席

(2) 区内各種団体等の行事関係

各種団体等が開催する大会、式典等への出席

(3) 視察・研修等

平成23年度教育施策連絡会（東京都教育庁主催）

〔内 容〕

- ・ 東北地方太平洋沖地震に伴う計画停電の影響等を鑑み、開催見合わせ
出前教育委員会

〔内 容〕

- ・ 教育委員が学校・園に出向き、施設状況や運営状況を直接、把握するとともに教育委員会の施策・考え方・取り組みについて教職員と意見交換を実施
- ・ 平成23年度は、富士小学校・浅草中学校にて実施
第2ブロック教育委員会協議会（文京区、台東区、北区、荒川区）

〔内 容〕

- ・ 各区教育委員会の重点事業等意見交換（文京区にて開催）

平成 2 4 年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

報 告 書

(平成 2 3 年度対象)

編集・発行 台東区教育委員会

〒110-86152 東京都台東区東上野 4 - 5 - 6

電話 03-5246-1402 / FAX 03-5246-1409

メールアドレス : syomu-ed@city.taito.tokyo.jp